

船舶事故調査報告書

平成28年4月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成27年12月12日 14時25分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市細濃地島北岸沖 水島港西1号防波堤灯台から真方位145° 1.2海里付近 (概位 北緯34° 27.1′ 東経133° 44.9′)
事故の概要	プレジャーボート紀州丸は、西進中、細濃地島北岸沖に拡張する干出浜（岩）に乗り揚げた。 紀州丸は、プロペラシャフト等に曲損を生じた。
事故調査の経過	平成27年12月21日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 紀州丸、5トン未満（長さ7.36m） 252-19190広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	プロペラシャフト、プロペラ翼及び舵柱に曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：波 なし、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船首約0.3m、船尾約0.7mの喫水で、備讃瀬戸東航路に沿って西進する予定であったが、他船の航走波が大きく航行できなかったため、急遽、本州側に寄って西進することとし、細濃地島北岸沖において、水上岩である白石を右舷方に見ながら手動操舵により西進した。 船長は、これまでに細濃地島北岸沖を航行したことがなく、細濃地島北岸に拡張する干出浜（岩）の存在を知らなかった。 海図W1127A（水島港東部）によれば、細濃地島北岸から白石北方約60mまで干出浜（岩）が拡張している。
分析	本船は、船長が、細濃地島北岸沖に拡張する干出浜（岩）の存在を知らなかったことから、同干出浜（岩）に向けて航行したものと考えられる。
原因	本事故は、船長が、細濃地島北岸沖に拡張する干出浜（岩）の存在を知らなかったため、同干出浜（岩）に向けて航行し、本船が干出浜（岩）に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・浅所等の状況を把握していない海域を航行しないこと。